

死刑は人道的か否か？

人道的な処罰は、その者を医学的に回復及びリハビリさせるものであり、さらに治癒につながるものでなければならぬ。つまり、犯罪者に変化を与えるものでなければならぬのである。

死刑に反対する国の数は、世界中において全体的に徐々に増えてきている。西側諸国においては、アメリカ合衆国を除いて、EC、オーストラリア、ニュージーランドを中心にほとんどの国が死刑を廃止している。法王ヨハネ・パウロ2世は、死刑の廃止に向かう動きはいのちの文化の構築に希望を与えるものであると語っている。一方アジアでは、アセアン諸国のすべてを含み、各国の刑法典の元に死刑制度をもっている。

死刑に賛成する人々の間では、三つの議論が繰り広げられている。まず第一に死刑は正義の要求するものであること。第二に犯罪を抑止するものであること。そして三番目に国家に対する合法的防衛になるということである。これらの議論は、今日の死刑を正当化するものだろうか？

死刑は人間的な思いやりのある罰だろうか。そうではないと思う。伝統的にも、これらの三つの要素は社会的罰、つまり復讐

や報いを伴う手本となるべき治癒力のあるものである。当然、社会的正義は、罰が復讐につながるらないことを望んでいる。「目には目を、歯には歯をは、世界中を盲目かつ歯の抜けた状態にしてしまふ。」(ガンディ)

人道的な処罰は、医学的にその者を回復及びリハビリさせ、さらに治癒につながるものでなければならぬ。つまり、犯罪者に変化を与えるチャンスを与えるものである。法王ヨハネ・パウロ2世が書いたように、「現代社会は、事実、犯罪者に対して更正のチャンスを提供することなく効果的に犯罪を抑止する方法を得ている。」また、判事としての職業を終える直前に、フルコ判事は書物に記している。「多くの人々と同じように、私は戦争で多くの罪のなしい人々が死んでいくのを見た。しかし、死刑という名の下に行われる行政による殺人ほど、良心をさいなまれることはなかった。」

死刑は犯罪の抑制につながるのだろうか？

死刑は、人々が同じような犯罪を犯そうとするのを思いとどまらせるような手本の理由となりうるのだろうか。死刑に賛成する人々はこの問いに肯定的で、反対する人々は否定的である。慎重に言くと、死刑制度を維持し適用する国よりも、廃止した国の方が高い犯罪率であるという事実はない。例えば、一九九四年にフィリピンで極悪非道な犯罪に対して再び課された死刑制度以降、犯罪の件数は減ったのだろうか？統計学的にみれば、その反対のようである。つまり、死刑が犯罪に重大な影響をもたらすということはないのである。アルバート・カミュは、「殺人は何世紀の間、処刑をもって罰せられてきた。しかし、ケインの種は途絶えていない。権力を利した脅しは、犯罪などとうてい犯さないような物静かな個人の心に届くのであって、態度を

あらためなければならぬ人々にはまったく影響を及ぼさない。処刑が犯罪の抑制につながるという考えを認めたとしても、それが人間である犯罪者を殺すという点で、人間の尊厳に対抗するものである。E・カントが言うように、「暴力は人道的かつ正しい社会問題の解決法ではない。非暴力こそがそうである。」と語っている。人間の法的処罰は自然ではない暴力のないのちの終わらせ方である。そして暴力はまた更なる暴力をもたらす。」

ニュージーランドの前州知事は、「死刑は私たちの品位を傷つけるものである。子どもたちに暴力に暴力で対抗するのがよいという間違ったことを教えてしまふ。」と何度も語っている。

死刑は国家を通じた社会防衛の合法的手段だろうか？

そうではないだろう。国家には社会の犯罪者から自らを守るために自由に操れる絶大なる権力がある。「たった一人の人間の存在が社会の秩序を妨げることなど決してできないだろう。妨げられるのはその行動だけである。」

自己防衛の道徳的本質は死刑には適用されない。なぜならこれは罰であって自己防衛のための行為ではないからである。一九七八年にフランスの司教団が説いたように、「この状況においては合法的防衛の問題ではないのである。さらに、合法的防衛には非常事態あるいは殺人を犯す危険のあるとき以外に不正な攻撃者の死を正当化することはできない。」集団的社会防衛の道徳的原理が適用されるのは、自衛のための戦争の場合のみである。

なぜ死刑は非人道的で不当なのだろうか？

主な理由はそれが生きる権利に反するものだからである。国連の人権における普遍的宣言書(一九四八年)の中で、「すべての人は、自由に安全に生きる権利が保障される。」(第3章)と語られている。さらに、国連の国家及び政治的権利に関する国際盟約(一九六六年)には、「生きる権利は人間にとって固有のものである。この権利は法によって

守られなければいけない。だれも、その権利を恣意的に奪われることがあってはならない。」

(第6章)

これに関して、いのちを守るために、極悪非道な犯罪を犯した者に対して再び死刑を課さなければならぬなどと、一体誰が言うだろうか。スペインに暮らしていたジョアキン・ルイス・ジメネズは、「生きる権利を宣言しながら、同時に死刑制度を維持することはまったくの矛盾である」と語っている。さらに彼は、「いのちが欲しいのなら、死ではなく、いのちを奨励するべきだ。」と付け加えている。

極悪非道な犯人に被害を受けた人々は？

死刑を支持する人々の中には、犯罪者を守り罪のない被害者を守っていないという理由から、死刑廃止論者たちを非難する人もいる。このような非難は当然フェアではない。私たちは死亡者名簿に載った被害者と一致団結しているつもりである。そして私たちは治療力のある罰、効果的な法の施行、そして時には投獄を求めているのである。しかし、私たちは同時に極悪非道な犯罪を犯した加害者の家族とも一致団結するべきなのではないだろうか。家族の一人に死刑が執行行われた場合、それ

は一人の人間が法的に殺されたことになり、その家族は不当にも苦しめられることになる。ピクトル・ユーゴは「死刑宣告された者の最後の日々」の中で、「致命的な打撃が彼のみを苦しめていると思うか？彼の父親、母親そして子どもたちまでが苦しみを味わうとは思わないのか？彼を殺すことによつて、彼の家族全員を傷つけ、罪のない人々まで罰してしまつたことになるのである。」と書いています。

十分な敬意を表しながら、死刑を支持する人々にお願ひしたい。「私たちの社会にいる貧しい人、取り残された人々が、死刑の適用によつて無差別に影響を被つてもよいものだろうか？」



21世紀中には世界中の死刑が廃止されますように

羊城晩報(イエンチョウ・イーブンング・ニューズ)は、中国語のウェブサイトで、「生きている人体からの腎臓」と骨髄を提供するという広告を見つけました。別のドナーは「視力の良い人間からの角膜：貧しいので至急売りたい」と書いていました。

今年初めに、香港から潜入したりポーターは、広州の中山医科大学病院で、「健康で若い」処刑者の肝臓の申し出を受けました。医師はレポーターに、すぐに臓器を予約し、計画中の処刑キャンペーンを利用するよう勧めました。

同じ病院の外科医、カ・シヨウジュン医師は今週、自分の臓器を売りたいという人がいると話しました。その臓器売買は親類や友人を装った仲介人によつて組織されているようだとは彼は話しました。

未成年犯罪者に死刑宣告

未成年者として一連の殺人を犯した男に死刑が宣告され、人権団体による抗議が展開されている。日本の少年法の元では名前を明かすことはできないが、この26歳になる被告人は、一九九四年に西日本地区において11日間にわたつて犯した4人の男性の殺害容疑で起訴されていたと裁判所スポークスマンのタケウチ・ジュンジは述べた。当時、被告人は19歳であった。

「当時彼は未成年であつたのだから、裁判所は彼を罰することよりも社会復帰させることを考えるべきだった。」と国際アムネスティのイシカワ・アキラ氏は述べている。当時18歳と19歳だった2人の共犯者は無期懲役を宣告された、とタケウチ氏は付け加えた。被告人達は、がんをつけられたとの理由から3人の男性を殴る蹴るなどの暴行を加えて殺害し、もう1人の男性を強盗目的で殺害し

たとされている。

日本の法律では、20歳未満は未成年者と見なされる。また、日本の少年法で18歳以下の未成年者は死刑からも守られている。過去に数人、18歳、19歳の未成年者が死刑宣告を受けている。日本では4年間の停止期間の末、一九九三年に死刑制度が復活した。以来、40人位の死刑が執行されている。



中国人の臓器販売

インターネット上で、健康であるけれども貧しい中国人が、仲介人のネットワークを通して臓器を提供し始めました。

ネット上での売買は、豊かな南部の広東省の新聞によつて明るみになりました。昨日、公衆衛生省は、現在のところ中国の法律の灰色部分である臓器売買禁止と臓器提供合法化の法案を草案中であるという報道に対するコメントを拒否しました。

デビッド・レニー

いのち・贈りもの

多くの人々はいのちをあたりま

えのものだと思い、麻薬やお金や権力などといった取るに足らないものにいのちをむだに使っていきます。彼らはいのちというものがむだにされるべきものではないという事を正しく認識したり理解していないように見えます。私も、かつてはそんな人達のひとりでした。

一九九〇年の秋、私は多量にお酒を飲むようになり、墮落した生活をするようになりました。私が反抗的にふるまうので、両親は私に家から出て行ってくれと言いました。そしてついには、荒れ果てたモーテルに住み、そこで私はシヨーンに会いました。一目惚れでした。私たちの関係は急速に深まり、まもなく私は彼の子を妊娠しました。

私は、その知らせを聞いたあの12月の雨の日の事を決して忘れはしないでしよう。私が病院から帰り着いたその時に電話が鳴りました。それは私の検査結果を知らせる看護婦からでした。

「もしもし。」と私はそわそわした声で電話に出ました。「ティファニーさんですか。」と

看護婦は言いました。

「はい、そうです。」私はその結果を実際には知りたくなかったのです。その時、私は妊娠の覚悟ができていなかったからです。

「あなたの検査結果が出ましたよ。あなたは妊娠してますよ。早速、あなたの母親教室の予定を立てたいのですけど。」私は受話器を持つたままじつとそこに立っていました。

「ああ、そうですか。」と、私は自分の置かれた状況がまだよくわからなくて、「ありがとうございます。」と云いました。

「待って、あなたの予定を立てたいの、私は電話を切つて座り込みました。笑つていいのか泣いていいのか、嬉しいのか悲しいのかわからなくて、私は看護婦の言った「ティファニーさん、あなた妊娠してるのよ。妊娠してるのよ。」という言葉を頭の中で何度も何度も聞きながら、じつとそこに座っていました。怖い、でもすばらしい。

残念ながらシヨーンは急に父親になる事を喜びませんでした。まず、彼は「墮ろせ」と言います。（私はクリスチャンで中絶を

認めないので、彼の言葉は私を深く傷つけました。）それから、シヨーンはおびえて、自分には責任がないと言いました。私はシヨーンを愛していました。それで私達二人が一緒にいて（できれば結婚して）、私達の子を育てたいと思いました。しかしシヨーンにはその覚悟はできていませんでした。彼は突然私を置いてカナダの故郷へ帰つてしまいました。私は悲しみに打ちひしがれました。

恐れと孤独を感じながら、でも私はこの子を必ず育てていくと決心したのです。未婚の母になるしか方法はなくても、私達二人（私と子ども）で生きていくと決めたのです。

ひとりきりの私の第一歩はモーテルを引き払い、飲酒癖をやめる事でした。他に行くあてがなかったため、私は市が経営する施設に援助を求めに行きました。そこで働いている人達は部屋を与えてくれ、政府の援助を申請するのを手助けしてくれました。数週間必死になって職探しをし、やっと私は衣料品店の仕事を見つけました。事態は

だんだん好転しているようでした。しかし、施設の中には危険で私を脅かす人もいました。ある夜、私は危うく刺されそうになりました。私は誰かにまだ生まれてこない私の赤ん坊を傷つけられはしないかと不安で、荷物をまとめて施設を出ました。私は、もうすっかり母性を備えた母親になっていました。

いつものように、母が私を助けに来てくれました。夜中に、彼女は施設に私を連れに来ました。私は母と義父の住む家に戻つて来ました。彼は冷酷で、私をどなりつけ中絶をするように言いました。しかし私は彼の仕打ちに耐え、子どもを墮ろさず仕事を続けました。でも、そこでの生活で毎日しだいにストレスがたまってきました。

毎夜、私は私の生活と赤ん坊の事で救いを求めて密かに神に祈りました。私の心はとても混乱していました。そして、赤ん坊を本当に愛しているけれども私一人で育てようとして手元に置けないとはつきりとわかり始めました。壊れた家庭で育つたので、心身ともに健やかな子どもを育て上げるには家族がどんなに重要なものであるか私にはわかっていました。特に、私の赤ん坊には立派な父親とすべきな家庭を持たせてやりたかったので、私達一人のために、欲しいも

「ごっくん、ごっくん。」

「例え

哺乳瓶からの

おっぱいでも

いのちがある方が幸せ。

お母さん

私を中絶せずに、

養子に出してくれて

ありがとうございます。」

「ごっくん、ごっくん。」



のがたくさんありましたが、それは私には到底そろえる事のできないものでした。

何週間か経つて、私はプロ・ライフ・センターへ行きました。そのすばらしいカウンセラーがこの「母の家」を探すのを手伝ってくれました。それは田舎のとても美しい所で、必要なものがすべて揃っていました。私はカウンセリングと治療を受けました。そして、他にも若いお母さん達がいたので、私達にとつて共通の悩みを分かち合いました。

家族のストレスから解放されて安らかな場所にいる事は本当にほっとするものでした。「母の家」で、私は子どもを養子にもらってもらう事を考えるのに必要な安らぎと静けさを持ってました。

春のピクニックの時、私はもう一人子どもが欲しいという立場なクリスマスチャンの家族に会いました。その夫婦にはすでに一人、男の子がいるのですが、なかなかもう一人の子どもができないのでした。彼らには私が探し求めていたすべてのものが備わっていました。それらは、美しさ、正直さ、優しさ、愛、キリストの信仰、しっかりとした家族の価値観でした。私達がお互い

をよく知り合うようになる、彼らは私に彼らの家庭を見にくるようにと誘いました。そこは田舎の、木や花や鳥がいっぱいで犬や猫や隣には馬までいる素敵な家でした。私は祈り、何週間も彼らの事を考えました。そしてついに、この家族こそ私の大事な赤ん坊を養ってもらう家族だと決めました。

予定日まで2、3ヶ月になってやっと私はお産の準備をしました。助産婦は私の親友で、私にお産に役立つ呼吸法や運動を教えてくださいました。私は妊娠中の最後の3ヶ月間を他の人の子どもの子守りをしたり、散歩したり、泳いだりして過ごしました。長く暑い夏でした。毎週私のお腹は大きくなり、格好悪くなってきました。でも私は、私の中に

寝顔

あんなにぐずっていたのに
陽二はもう寝てしまった
さもさも安心したといふふう
やさしい顔をしている
こんな顔をみていると
心がきよらかになる

【八木重吉全集 第2巻】

私の赤ん坊がいる、この瞬間を大事にしたかったです。というの、すぐに彼女は(私は女の子を望んでいるのですが)私のもとを離れて行ってしまいうのですから。

とうとうある夜、陣痛が始まりました。母が来て、私を病院に運んでくれました。私は痛みのために恐くて泣き叫びました。

12時間も陣痛が続いて、私は死んでしまいそうでした。看護婦も、母も、助産婦も、私が最終段階を乗り切る手助けをしてくださいました。8月12日、私の大事な女の子が生まれました。私は彼女にアリアナ(それは雨音の意味)と名付けました。今までは赤ちゃんに対してこのような愛情を感じた事は一度もありませんでした。彼女は美しく、ちっちゃくて、すばらしかったのです。私の両親もそこにいました。

(私の実の父も来てくれていました。)私達はみんなで一緒にすわり、私達の家族に新しくこの小さな子が生まれた事を静かに喜んでいました。

翌朝は快晴で、空は真っ青でした。私達は赤ん坊を連れて退院し、弁護士事務所へ書類にサインしに行きました。すべてが夢のようでした。外に出て、私は養父母の手に赤ん坊を渡しました。実母が私の傍らにいました。「こんなかわいい贈りものをあ

りがとう。」と言って、養母は泣きじゃくりました。

「どういたしまして。」と、私はみんなを見て微笑みました。私以外はみんな泣いていました。私の涙は心のずつと奥底に沈んで出てこようとはしませんでした。

私は眠っている娘に、「愛しているよ。だから、おまえをもらってもらうのよ。」とそっとささやきました。それから小さい額にキスをして、さよならを言いました。今までにそれほどどらい事はありませんでした。母と私は家に帰りました。腕に抱くものは失くなっていましたが、心は希望に満ちていました。私達の大事な赤ん坊を失ってつらかったけれど、家族を持てた我が子の幸せを思うと希望が湧いてくる気がしました。

娘を養子に出してから長い間、私と母はつらい日々を過ごしました。私達は一緒に深く悲しみ、虚しさを覚え、寂しさに涙を流しました。ときにはこれ以上苦痛に耐えきれないと思う事もありました。私が神様のおかげでなんとか切り抜ける事ができました。私は公然と養子に出していいので、私達は赤ん坊がどうしているか電話をもらったり、手紙をもらったりできました。その事で随分慰められました。その中でも一番良かった事は

養母に抱かれた娘。
私の決心は愛の決心。



シヨーンが戻ってきた事です。クリスマスには彼と私の二人で赤ん坊に会いに行きました。そのことは奇跡の中の奇跡でした。一九九二年の秋に私は最後に私の娘に会いに行きました。(というのも彼女もすだいに大きくなり、私が誰なのかという事で彼女を悩ませたくなかったものですから。)私が彼女に対して夢見てきた夢のすべてと、捧げてきた祈りのすべてに答えが出たのです。彼女が家族の中で幸せに安心して遊ぶ姿を見たからです。

私は自分の子を手元に置けなかった事を後悔しています。しかし、私が彼女を妊娠し、産んだ事は決して後悔するつもりはありません。いのちとはどんな母親にも贈る事のできるいちばん大切な贈りものなのです。

ティファニー・アンネ・クック

プロ・ライフ資料紹介

404 ビデオ 厚生省・
(社)日本助産婦会推薦

『いのち-おくりもの』 part-2

生命尊重ビデオ III

(日本語 25分 ¥13,000+送料)

先月号に引き続き、ビデオ『いのち-おくりもの』の紹介を致します。

先月号はこのビデオに出てくる二組の夫婦のうちの二組、日本の伝統の中でいのちを迎え、教え子たちとの対話の中にいのちを見つめようとされる越智先生御夫婦の紹介をしましたが、今回は家族全員でいのちを迎えた村井美貴さん御一家です。

村井さん御一家にはすでに、男の子二人と女の子一人の三人のお子さんがいらっしゃいます。四人目のお子さんをみごもった時、御夫婦はいのちをつなげていくお産を家族で見守り、家族そろって出産を迎えられれば良いなあと考えられました。

赤ちゃんは頭の一番小さな周囲を産道にあわせるように、そして、お母さんも威張っていないで、さあおいでと顎を引いて、おじぎをするところからお産が始まると賀久はつ院長(むなかた助産院)は言われています。

また、鈴木健二様は二人の子どもを抱いてあらわれる雪女は女性に子どもを産む力を授けると話ながら、日本には宿った時から(数え年)と、生まれた時(満年齢)からとを最初とする年令の数え方があることを伝えてあります。0才の赤ちゃんはなぜあんなにすばらしい力があるのか、赤ちゃんはお腹のなかで準備をしていると言います。だから、赤ちゃんは小さいけれど家族皆に喜びを与えられるし、生きる力をお母さんに与えることができる、愛を与えあつ

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

注文:	1 - - - - 5	1部 = ¥100
	6 - - - - 20	1部 = ¥75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥50
	1000 - - 以上	1部 = ¥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

て、母子は生きる。胎児だから余計にすばらしく出て来ると言います。

そのような話を聞いていると、お兄ちゃんの「出た!」の音が産室に響きます。小さな妹を迎えたよるこび...

赤ちゃんのいのちが大きな喜びの中で迎えられる社会を願って作られたこのビデオは産婦人科の待合室でも流して下さっています。是非、学校教育、また、御家庭ではお子さんへのプレゼントにもお使いいただければと思います。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 無料 + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
- [202] 第二の処女生..... + 郵送料
- [203] デート..... + 郵送料
- [204] どうするの?..... + 郵送料
- [205] "NO"という技術..... + 郵送料
- [206] テイーンの出産コントロール..... + 郵送料
- [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
- [208] していましたが..... + 郵送料
- [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
- [210] 貞節のすめ..... + 郵送料
- [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
- [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
- [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
- [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
- [306] ミニソフィア Ace エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [404] いのち-おくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
- [407] 命美しいもの=one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
- [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
- [410] ピル先進国・英国からの警告...(VHS).....15000 + 郵送料
- [411] (コース・セミナー)エイズ時代の性倫理...(VHS).....3800 + 郵送料
- [500] (本)生命問題に関する...(カトリックの教え).....2987 + 郵送料
- [501] (本)自然な家族計画...(ビリングス・メソッド).....1000 + 郵送料
- [503] (本)プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
- [504] (本)小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
- [505] (本)いのちをみつめて.....500 + 郵送料
- [506] (本)命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....660 + 郵送料
- [507] (本)私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
- [508] (本)いのちの福音.....1500 + 郵送料
- [509] (本)小さな生命のために.....1300 + 郵送料
- [511] (本)赤ちゃん：最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
- [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
- [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
- [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
- [515] (本)経口避妊薬：ピル.....100 + 郵送料
- [516] (本)いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料
- [517] (本)フマネ・ヴィテ.....300 + 郵送料

(本)フマネ・ヴィテ

- 1 ~ ~ 30 1部 = 250円
- 31 ~ ~ 100 1部 = 200円
- 101 ~ ~ 以上 1部 = 150円

パンフレット申し込み

- 1 ~ ~ 5 1部 = 35円
- 6 ~ ~ 100 1部 = 25円
- 101 ~ ~ 500 1部 = 20円
- 501 ~ ~ 以上 1部 = 15円

は自由です
組み合わせ

十代の性 (21)

質問：10歳上の男性が、私に好意をもって来ています。相手が年上でも、うまくつきあっているのでしょうか？

デートを重ね、
親しくなったら？

Q & A

答え：共通項の多い相手との方が親しい関係を築きやすいでしょう。お互い相手に望むものが似ていれば、ぶつかることもなく、ケンカも少ないでしょう。16歳のあなたと26歳の彼では、人生経験や相手に望むことなどの面で差があるのを目に見えています。既に結婚のことまで考えている

『沈黙の叫び』を見て

否定も肯定もできない

正直な所、私はどちらかというところ中絶は賛成でした。子どもを育てる環境ができず、又両親に親になる自覚と責任が認識されていなければ、子どもにその負担が来ると思っていたからです。先生の言われる様ないろんな人達の愛を受けることが分かっているのに、子どもを産むのは無責任なことではないでしょうか。でも、ビデオの内容は、とてもショックなものばかりでした。

そして又、私を産んでくれた両親に、改めて感謝したいという気持ちになりました。人が生まれてくるという事はとても不思議なことだと思いました。祖先の誰一人抜けても、その人は生まれてくることはできないのだから。それと同時に、生まれてくる人間はとも無力に思えます。やっぱり、中絶という行為は行なわれてはいけない事のようにも思えてきます。こんな悲惨な事を、行なわずに済むようにするためには、どうすればいいのでしょうか。確かなことは、子どもにとって一番頼れる人は両親、子どもに経済的にも精神的にも絶対の信頼とあふれるばかりの愛情を与えることができるようになるまで、人間的に成長しなければ、親になつてはいけないと思います。

T・Sさん「高三生」

かもしれない彼と、将来に向けて勉強中のあなた。実際はあまりすすめたくありません。でももしあなたが50歳で、彼が60歳だったら、10歳差もさして問題ではなくあります。年齢・信仰・種族・社会的背景などの違いがある交際は、頭で考える分には可能です。が、ふたりとも充分成熟していないと、違いを克服し、家族や友人を説得していくことができないでしょう。

日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062 高知市新本町一丁目7-31

電話 / Fax 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

For English Speaking People / evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforjyoma.or.jp

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

事務所時間:

月・金 10:00 - 17:00

土曜日 休み

日曜日 休み

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

現在口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り



夜空に
輝く星は、
寒い冷気にも凜
として瞬いていま
す。お元気ですか。

プロ・ライフ・事務所では、死刑廃止を願っています。今月号の2、3ページでその記事を取り上げました。もうだいぶ前になりますが、テレビでアメリカの死刑囚が処刑される日、その方の家族がテレビに出て、その苦しみを述べておられたことを昨日のように覚えています。その時、死刑囚の方の苦しみだけではなく、その方の周りにいる方々の苦しみを痛い程感じたのです。

また、オウム事件の裁判のあった後、これもまたテレビで聞いたのですが、「犯人は処刑されて死んでしまえば、すぐ何も分からなくなるから楽だ。罪をつぐなつて長い間苦しむより...。死刑廃止を望む人はその苦しみを犯人に味わわせるためではないか」とある方がアンケートに答えているのをアナウンサーが読み上げていました。何と色々な考え方があることでしょうか。

欧州では死刑による処刑はされていないとのことですが、日本ではまだ、7割の人が死刑を容認しているという新聞(9/11/28)に掲載されています。

死刑廃止への道のりは、中絶廃止と同様まだまだ長い道のりを歩かなければならない様です。でも私達は一步一歩たゆまず歩んで行きたいものです。

毎月のご寄付は、どうか事務所への金銭的支援をお願い致します。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)